

文学部プロジェクト研究「イメージの人文学」主催

マンガから 見る ロシアの戦争

2023/2/9(木)
18:00-20:00 [開場 17:40]

会場：岡山大学津島キャンパス
文法経講義棟・20番講義室

ゲスト：速水螺旋人（マンガ家）
対談者：越野剛（慶應大学）
司会：本田晃子（岡山大学）

入場無料・事前登録不要

連絡先：ahonda@okayama-u.ac.jp



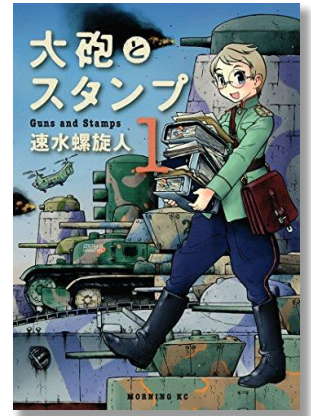
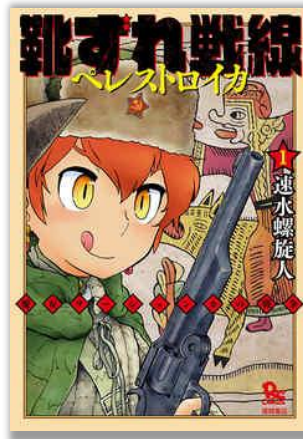
マンガから見るロシアの戦争

2022年2月24日にロシア軍によるウクライナ侵攻が開始されてから、既に一年が経とうとしている。侵攻の当初より、ロシア側はこの戦争を正当化するために、しばしばウクライナ政府やウクライナの人びとに対して、「ファシスト」、「ナチス」といった第二次世界大戦時の「敵」のイメージを投影してきた。つまり21世紀に勃発したこの戦争は、第二次世界大戦（ソ連風に言うと大祖国戦争）という20世紀の戦争の記憶や記録・表象と、切り離せない関係にあるのだ。

このようなロシア（ソ連）という近くて遠い国、とりわけその20世紀の戦争の歴史を、マンガを含む現代日本およびロシアのサブカルチャーはどのように描いてきたのだろうか。そして今後、それはどのように描かれていくのだろうか。岡山大学文学部プロジェクト研究「イメージの人文学」では、ロシア史にも造詣の深いマンガ家の速水螺旋人氏と、ソ連文学・文化研究者の越野剛氏をお招きし、マンガやサブカルチャーを通して見るロシアとその戦争について論じていただく。

速水 螺旋人（はやみ・らせんじん）

マンガ家、イラストレーター。代表作に、独ソ戦を背景とする『靴ずれ戦線 魔女ワーシェンカの戦争』全2巻（徳間書店 2010-2013年、2019年に『靴ずれ戦線 ペレストロイカ』全2巻として再刊）や『大砲とスタンプ』全9巻（講談社 2011-2020年）、『男爵にふさわしい銀河旅行』全3巻（新潮社 2017-2021年）など。スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ原作・小梅けいと作画『戦争は女の顔をしていない』（KADOKAWA 2019年～）では監修を担当。他にも、小泉悠著『徹底抗戦都市モスクワ 戦い続ける街を行く！』（ホビージャパン 2018年）などの単行本のイラストや、TRPGのイラストも多数手がける。



越野 剛（こしの・ごう）

慶應大学文学部准教授。専門はスラヴ文学・文化。代表的な論者に、「ベラルーシの作家としてのアレクシエーヴィチとロシア語」（『ユリイカ』第54巻第9号 2022年）、「ドストエフスキーにおける病氣と火事——『白痴』のナスターシャの身振りを再考する」（『現代思想』12月臨時増刊号 2021年）、「ロシア・ベラルーシの戦争映画における敵のイメージ——アレシ・アダモヴィチ原作の映画を中心に」（『紅い戦争のメモリスケープ——旧ソ連・東欧・中国・ベトナム』北海道大学出版会 2019年）など。

